

Asian Suzyの「アジアのるつぼ」は、アジア各国・地域から寄せられた生活・文化情報を、Asian Suzy編集長が採用の可否を判断し皆さまにお届けするコラムです。



Vol.7 2012年1月4日

みんなどんなクルマ乗ってる？

笑門来福、2012年も「アジアのるつぼ」をご愛読のほどよろしくお願ひいたします

さて、みなさんは昨年末に開催された「東京モーターショー」を見に行きましたか？

幕張メッセから東京ビッグサイトに会場を移したショーには約84万人が来場しました。

近年、エコ技術に話題が集中していましたが、BMWのi8やトヨタ86などのスポーツカーに長い行列ができていました。また自動車雑誌によると、メルセデス（前年同期比102%）、BMW（103%）、Audi（126%）と、ドイツ車御三家と言われる3社の昨年1-10月の新車販売も好調のようです。

こうして見ると、日本では軽自動車やエコカーなどの実用車と、スポーツカーやドイツ高級車など、人気車種の二極化が進んでいるようです。

それでは、アジア各国・地域はどうなっているのか見ていきましょう。



スーパーカーが高速道路を爆走するインド！

インドでは、ランボルギーニやフェラーリといったイタリア高級車メーカーが次々と販売店をオープンしています。これまでも、IT長者や若い富裕層のニーズはあったものの、インドでは車高の低いスポーツカーが走れる舗装された直線道路が少ない、というジレンマにより販売台数が伸び悩んでいました。



そこで、ランボルギーニやフェラーリ等のスーパーカーのオーナーになると、貸しきられた高速道路を思う存分走行できるというサービスをはじめました。会員数はこの2年で10倍近くになり、販売も好調だそうです。

そんなインドに、モータースポーツ界も注目しています。昨年10月には、国内初となるF1インド・グランプリが開催されました。決勝の日には、日本での観客動員数に匹敵する9万人が来場し、大成功を収めました。

一方、新車の販売状況を見ると、コンパクトカーが多くランクインしています。トップシェアを誇るスズキのインド子会社「マルチ・スズキ」からは、日本でもおなじみのアルト（1位）、ワゴンR（5位）、スイフト（6位）がランクインしています。それもそのはず、インドの新車販売に占めるマルチ・スズキのシェアはなんと45.9%！続いてヒュンダイ（韓国）が2位、7位、8位と存在感を示していますが、徐々にシェアを落としています。

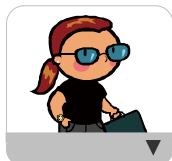
新車販売における上位10モデル(2011年10月)

| モデル | ブランド | 台数 |
|-------------|-------------|--------|
| 1 アルト | マルチ・スズキ | 15,197 |
| 2 i10 | ヒュンダイ | 11,557 |
| 3 インディカ・ピスタ | タタ | 10,812 |
| 4 ボレロ | マヒンドラ&マヒンドラ | 8,082 |
| 5 ワゴンR | マルチ・スズキ | 7,934 |
| 6 スイフト | マルチ・スズキ | 7,845 |
| 7 i20 | ヒュンダイ | 6,834 |
| 8 イオン | ヒュンダイ | 6,315 |
| 9 インディゴ・マンザ | タタ | 6,268 |
| 10 エティオスリーバ | トヨタ | 5,859 |

マルチ・スズキのクルマは、これまで故障以外でメンテナンスを行なう習慣がなかったインドの人々に、販売店だけでなく定期点検巡回車両を派遣するなどしてアフターサービスに努め、新車販売の過半数のシェアを獲得するまでに成長したといわれています。

これまでの価格重視のクルマ選びから、悪路やほこりっぽい道路を走っても壊れない、または壊れてもすぐにメンテナンスしてくれる会社のクルマに人気は移っています。

[出所] The Definitive Indian Car Community



これまでの常識を越えたコンパクトカーが、 香港と日本に上陸！

昨年10月、イギリスの高級車メーカーのアストンマーティンは「シグネット（白鳥のひな）」を日本でお披露目しました。シグネットは、トヨタの「iQ」というコンパクトカーをベースにアストンマーティンが内外装を仕上げたクルマで、ヨーロッパに続いてアジアでは香港と日本の2カ国で発売されます。

受注生産のため、あらかじめ用意されているさまざまなオプションに加えて、ボディカラーやシートなどを、自由にカスタマイズできることが最大の売りになっています。例えば、顧客は好きなカラーのサンプルを持ち込み、「ボディカラーはつや消しのガンメタリック、シートは持ち込んだサンプルの色に黄色の糸でトリミングをして」などと伝えます。職人はそのオー

ダーを元に丁寧に手作業して、顧客の要望に応えます。細部まで徹底したクラフトマンシップに支えられた「ラグジュアリー・コンパクトカー」は、これまでのコンパクトカーのイメージを覆しています。

価格は475万円（香港では約60万HKドル）からと高級車が見える価格帯ですが、香港では奥さんへのプレゼントとして、日本では大型車に乗りなれた人が、セカンドカーやサードカーとして購入を考慮することが多いようです。

どちらでも特別オーダーを加えていき、支払総額は600万円以上になることも珍しくないそうです。



アストンマーティン「シグネット」



贅沢にレザーが使われたシグネットの運転席。ブルーのトリミングが効いている。



日本車天国のインドネシア！

新車販売における上位10モデル(2010年)

| モデル | ブランド | 台数 |
|-------------|------|---------|
| 1 アバンザ | トヨタ | 141,799 |
| 2 セニア | ダイハツ | 65,901 |
| 3 キジャン イノーバ | トヨタ | 53,824 |
| 4 ジャズ(フィット) | ホンダ | 22,758 |
| 5 グランドリヴィナ | 日産 | 22,560 |
| 6 ラッシュ | トヨタ | 18,420 |
| 7 APV | スズキ | 18,024 |
| 8 ヤリス | トヨタ | 16,979 |
| 9 CRV | ホンダ | 16,961 |
| 10 テリオス | ダイハツ | 16,483 |

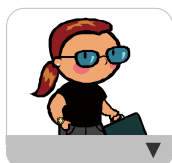
[出所] インドネシア自動車工業会(GAIKINDO)、
Best Indonesia Cars Guide

インドネシアの新車販売に占める日本車のシェアは9割以上、人気車種のランキングでも1～10位を日本車が独占！

昨年12月、トヨタは約8年ぶりに「アバンザ（1位）」をフルモデルチェンジしました。全長を20～30mm、車幅を30mm大きくすることで、7人乗りの3列シートの後部スペースを広げたり、2列目シートがスライドできるようにするなどシートアレンジをより柔軟にしています。

大家族やお手伝いさんなど大人数での移動が多いインドネシアの事情を踏まえて、より一層車内を快適に過ごせる工夫をこらしています。

合わせて、一部のタイプではバックセンサーなどを標準で装備したり、オプションにバックモニターを加えるなど、日本のメーカーはインドネシアの所得向上を睨んで、価格以上の価値をつけることで購入価格を引き上げようとしています。



車両価格の4倍必要？ 高級車シェアが高まるシンガポール

シンガポールの地元紙は、2012年の同国の新車販売台数は2.7万台前後になると発表しました。これは、昨年と比べ0.3万台の減少となり、一昨年と比べると約2/3の数字です。

シンガポールでは、クルマを所有する際に「車両購入資格証明書（COE）」が必要となります。政府は、毎年道路面積の増加率や廃車数を見ながら、新車登録台数を年3%程度の増加に抑えてきました。

| | |
|---|---------------------|
| 【例】車両価格200万円の 普通自動車（1600cc以下）を購入する場合 | |
| 車両価格 | 200万円 - A |
| 輸入関税 | 40万円 - Aの20% |
| 物品サービス税 | 14万円 - Aの7% |
| 車両登録料 | 0.8万円 - 140SDル |
| 追加登録料 | 200万円 - Aの100% |
| 車両購入資格 証明書(COE) | 300万円 - 入札方式 |
| ----- | |
| 合計 | 754.8万円 - 車両価格の3.8倍 |

【出所】シンガポール陸上交通庁、ジェトロの資料を元に
国際投信投資顧問が作成
日本円は1SDル = 60円として換算したものを、千円以下四捨五入。

しかし、このまま道路面積が増加すると、道路と住宅が隣接し住環境や景観が悪化するとの懸念から、道路面積の増加率を年1%から0.5%に縮小するというのです。

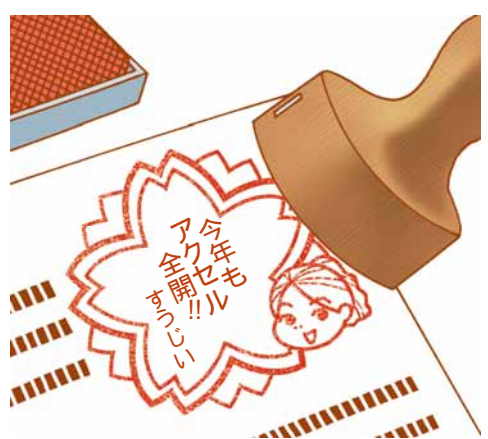
すると入札方式をとっているCOEの価格は急騰し、昨年12月28日現在、1600cc以下のクラスで300万円強、1600cc超のクルマではなんと420万円強になりました。クルマを購入する際、車両価格に加え、「輸入関税」「物品サービス税」「車両登録料」「追加登録料」などを加えると、車両価格が200万円の普通自動車（1600cc以下）を購入する場合、754.8万円にもなる計算になります。

この状況下では新車購入者が富裕層に限定され、新車に占める高級車のシェアが33%から50%になったと言われるのも納得です。

インドのタタ・グループはイギリスのジャガーとランドローバーを、中国の吉利汽車はスウェーデンのボルボを買収しました。

2011年1-11月の新車販売で、インドネシアが前年同期比17%増となり、タイに変わって東南アジア最大市場に躍り出ることが分かりました。

このようにめまぐるしく変わる状況の中、各社のアジア戦略によっては、アジアの人々が当該国・地域のメーカーのクルマに乗る日も近いのかもしれない。



以下よりバックナンバーをご覧ください。

- Vol.1 夏の暑さ対策どうしてる？
- Vol.2 お酒の常識！非常識？
- Vol.3 スマホ持ってる？
- Vol.4 日本に来て何する？
- Vol.5 防災対策してますか？
- Vol.6 お正月、トコロ変われば！

ご意見、お問い合わせはこちらまで
 【電話】 ☎ 0120-759311 受付時間 / 営業日の9:00 ~ 17:00

【本資料に関してご留意頂きたい事項】
 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。
 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を示唆あるいは保証するものではありません。
 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 本資料中で使用している商品名は、個別商品の推奨を目的とするものではありません。
 本資料中で使用している写真は、正規ディーラーの許可を得て筆者が個人的に撮影したものです。
 本資料中で使用している税率は、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。